

四国子ども支援団体助成事業

ANNUAL REPORT | 2021



VISION

すべての人たちが無限の可能性を感じ、夢を叶えるために自信を持って自由にチャレンジできる世の中をつくり、世界を笑顔の絆でつなぐ

特定非営利活動法人 GIFT

〒780-0973 高知市万々519-1-301

TEL : 088-881-7503 FAX : 088-881-7555 MAIL : info@npo-gift.com

HP : <https://npo-gift.com/> Instagram : npogift_child.rearing.support

四国子ども支援団体助成金事業
一般社団法人チャイルドライフサポートとくしま
HP : <https://cls-tokushima.org/>



子育て応援スペースいちねん家族

地域の居場所のミッション

基本的な考え方と事業への想い

◇課題解決のための基本的な考え方

既存の支援やサービスだけでは、現状ある課題のすべてを解消することは、なかなか難しい現状にあります。

当事業では、支援やサービスだけでなく、地域がつながるコミュニティづくりを行うことで地域課題の解決を試行していくものです。地域の“つながり”とは、“共感”と“相互支援”であり、互いに名前呼び合える関係性（社会的家族）の上に成り立った地域コミュニティを目指します。

子どもたちが自分の夢を持ち、未来に希望をもってチャレンジしていけるコミュニティ（環境）を整えるために、一番に考えなければならないことは、保護者の心身の健康です。その心身の健康が保たれていれば、例えどのような環境、状況にあったとしても、大人たちは子どもの可能性を信じ、その成長を支援できるのではないのでしょうか。またそのような環境で育つ子どもたちは、自らの可能性を信じ、意欲的な活動を行えるものはないかと考えます。

子育て世代を中心とした地域住民が、互いに学び合い、支援し合うことのできる環境をつくっていくためには、現状で最良と思われる取り組みやまだ実施されていない新たな取り組みが必要不可欠です。

◇事業への想い

この事業のゴールは、地域の誰もが主体的に自らの課題を乗り越え、自己実現できる社会の現実です。そのために私たちは、①参加者一人ひとりの本来もっている力を信じること②互いにエンパワーメントすること③参加者が自ら大切にできる“夢”を見つけることを念頭に置いて、この活動を行っています。

そして、自分のできることで他者に貢献する「相互支援力」また自分自身を大切に思い、目の前の存在も大切に思う「共感力」が身につくような環境を大切にし、お互いがある存在に感謝する、心と心が通うコミュニケーションのある居場所を作ります。

一年という期間を同じ想い（一念）を持って過ごすことで、心から「人と人とのつながり」を感じることが出来る居場所をつくり、そして、多くの地域に拡げていきたいと思っています。

2021年度・活動のお礼とご挨拶

人の夢を応援しようと団体を設立した2009年以降、2011年にはNPOとして再出発し、11年目になりました。昨年6月に組織編成を行い理事長、事務局長の交代を経ての現在。本当に沢山の声や力に支えられて、ここまで育てていただきました。その感謝の思いに報いるべく更なる社会貢献・夢実現の応援で笑顔繋ぐミッションを持って活動しています。

近年のコロナ禍で人の繋がりが薄くなりがちなか、誰も孤立させない地域社会を目指した「いちねん家族」プロジェクトにご賛同いただいた一般社団法人チャイルドライフサポートとくしま様には、心より厚く感謝申し上げます。お陰様で、この一年の活動で様々な解決課題が見えました。今後にかし、未来をつくる子ども達の自信と安心を育める、一歩進んだ活動へと進化させ継続してまいります。今後ともご支援ご鞭撻をいただきますようよろしくお願いいたします。



理事長
田埜 千晴

GIFT 団体概要

正式名称	特定非営利活動法人 GIFT
設立年月	2011年9月
主な事業・活動	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児の居場所 毎週木曜日の日中、子ども食堂を開催 ・自然体験型学習 高知県教育委員会の助成でサマーキャンプを開催 ・ひとり親家庭支援 ひとり親家庭等支援センターの運営管理 ・子どもの居場所 毎週水曜日16:00~20:00、子ども食堂を開催 ・ドリブラ 聞く人にも感動を与える大人が本気で夢をプレゼンする大会
理事長	田埜 千晴
副理事	眞鍋 大輔 / 山根 幸
理事	大西 圭介 / 三木 亜希子 / 池上 雅美 / 高塚 楽 / 永安 悠莉 / 岩本 理緒
監事	山岡 直人

事業の概要

○ 事業目的

1. 子どもの健全な育成をサポートし、生きる力を育む
2. ひとり親家庭が地域の中で孤立する前に、関係機関と連携して、必要な支援につながるサポート体制を構築する
3. 地域住民が主体的な相互支援を行うコミュニティをコーディネートできる人材を育成する
4. 地域のつながりを最大限に発揮できる拠点を確立させ、その情報と経験を広く共有できるようにまとめる

○ 実施状況

開始当初、事業のメイン対象者を未就学児を持つひとり親世帯と単身で暮らす高齢者、開催日時を毎週金曜日の11時～16時に設定していました。コロナ感染が拡大する中で、地域で暮らす高齢者に参加してもらうことが困難であり、また利用者が集まらないという状況にありました。これらの状況を受け、2021年7月18日から対象者と開催日時を変更しました。高知県で暮らす未就学児とその保護者を対象に、毎週日曜日11時～15時に開催するという形になりました。

○ 実施体制

プロジェクトリーダーの大学生2名をはじめとして、中学生や大学生などのボランティア協力によって実施しています。

(事業の運営は、会議の内容をもとにNPO法人GIFTとプロジェクトリーダーが主体となって行いました。本事業は、共有した地域コミュニティを達成目標としており、行政関係各機関や地域の学校、子育て支援を行う他団体などの連携協力のもと実施しました。)

運営管理

NPO法人 GIFT
 理事長 田埜 千晴
 副理事長 眞鍋 大輔
 副理事長 山根 幸
 事務局長 公文 清水

運営実務

プロジェクトリーダー
 大学生 中内 千咲
 大学生 谷口 芽伊

連携機関

高知市社会福祉協議会
 高知市母子保健課

活動場所



高知県高知市朝倉己850-32
 「コミュニティ施設クルム」

活動地域について

<高知市>

人口はおよそ33万人、少子高齢化が進む高知県の中心地。生活保護世帯、ひとり親家庭も全国平均より高い割合となっています。

ひとり親の約9割が就業しているものの、収入が低く、「働いているのに貧困」という状況が深刻化しています。仕事と子育てを両立させるためには様々な支援が必要とされています。

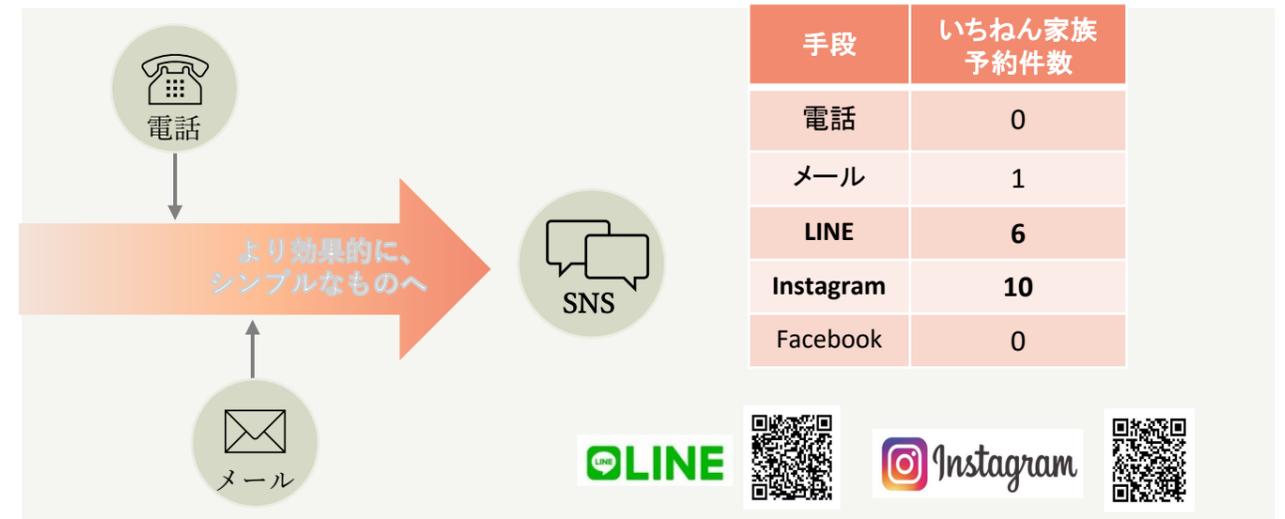
<朝倉地区>

高知市西部地域に属し、人口27,550人。毎年子育て世帯が増加している地域。「貧困の連鎖」が根深く、非行や少年犯罪、不登校など教育面においても課題が多いです。

活動を通して得られたノウハウ

● SNSを用いて気軽かつ手軽にアクセス

主にInstagramやLINEで広報を行い、ウェブ上で申込ができるようにしました。育児のスキマ時間に情報をキャッチして、申込ができるようになっていました。



● 利用者とのコミュニケーション

3つのことを意識して利用者とのコミュニケーションを取りました。1つ目は保護者の方や子どもたちが普段どのように過ごしているのかをイメージできるようにお話しすることです。2つ目は、お子さんの変化をキャッチし、成長を共有し喜ぶことです。3つ目は、傾聴や肯定です。ありのままを受け止めて否定せず、利用者の好きなことや困っていることを知って、「利用者を知る」ということを意識したコミュニケーションを取りました。

活動を通して見えてきた課題

● コロナ禍での活動継続

新型コロナウイルスが感染拡大する中で、私たちは1年間の活動期間に2度、完全自粛せざるを得ませんでした。子どもの預かりや居場所の開催は難しいですが、「交流・相談」というニーズに対してできることがあったのではないかと思います。例えば、オンラインサロンといった非対面での交流を図るなど、来年度に向けて改めて試行錯誤していく必要があります。

● 受援力のサポート

孤立している世帯は支援があることにも気づけない可能性があり、また支援を知っていても障壁があり受けられない場合や支援自体にスティグマを抱えている等さまざまなことが考えられます。こうした課題を受け、来年度からひとり親交流会の開催も検討しています。また、地域の関係機関と連携を強化していくことも必要であると考えます。

● コミュニティの構築

新型コロナウイルスの長期化もあり、孤立した保護者同士の交流、地域の方の参画を想定よりも促進することができませんでした。活動に賛同し支援・協力いただいた方々との繋がりや経験も踏まえて、今後の活動を改めて考えていきます。





スタッフの声

VOICE 1



プロジェクトリーダー
中内 千咲

活動にご賛同いただき、ご支援・ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

メイン活動である子育て応援スペースでは、半年間（2021年4月～9月）は参加者が来ないことに頭を抱えながらも、連携機関や関係機関からアドバイスをいただきながら、様々なことを試み前進してまいりました。そのおかげもあってか、10月からは沢山の方にご利用いただきました。長引くコロナ禍、感染症対策と併せて活動内容を見直しながらの運営の大変さも感じました。

利用者は継続の方が多く、お子さんの成長を共有できるようになったことが特にうれしく感じています。また、利用者からの感謝のお言葉や子どもたちの笑顔を見るとやりがいを感じました。

高知県では、母と子のみで暮らす独立シングルマザーの割合も多い一方、支援や交流の場が少ないという現状にあります。これからも、GIFTを通じて微力ながらひとり親家庭の方々の力になればと思っています。

VOICE 2



プロジェクトリーダー
谷口 芽伊

いちねん家族の活動にご協力いただいた多くの方々に深く感謝申し上げます。

活動の継続・発展が思うようにいかない一年でしたが、おかげさまで参加してくれた子どもたちと保護者の方、ボランティアさんたちにも楽しく過ごせてもらった居場所ができていたと思います。私は活動を通じて、「自立した子育て＝子どもは親が育てるもの」という考えが多くあるのではないかと感じました。

今後、この事業でできたコミュニティを中心に、他の人の手をたくさん借りて息抜きをしながらできる子育てが広がるよう、関わり続けたいと思います。

目次

事業概要	3-4
2021年度 活動成果のトピックス	5-6
I 子育て応援スペース いちねん家族	7-8
II イベント (Petapeta-art・クルムdeハロウィン)	9-10
III フードパントリー	11
活動を通じて得られてものや課題	12
活動者の声	13
活動の御礼と団体概要	14

2021年度活動ハイライト



I 子育て応援スペース
子育て中のママパパが、悩みや楽しみを共有できる居場所を毎週日曜日に開催



II イベント
親子参加型のイベントを2回開催しました



III フードパントリー
ひとり親世帯に食品の無料配布を実施しました

2021年度 活動成果のトピックス

I 子育て応援スペース

→ P.7-8

子育て世代の居場所を28回開催

未就学児のいるご家庭であれば、どなたでも利用いただけるスペースを計28回開催しました



親子のべ57人が利用

活動当初の参加者0や、感染症拡大による活動自粛など活動が難しい1年でしたが、多くの方の協力のおかげで、親子のべ57人の方にご利用いただくことができました

新聞2社に取り上げられる

いちねん家族の活動を多くの人に知ってもらい、賛同してもらうことを目的に、事業開始時にプレスリリースを行いました

2021年5月7日に高知新聞、5月14日に読売新聞に掲載していただきました



II イベント ②クルムdeハロウィン

目的	(1) 家にこもりがちな親子がリフレッシュできる時間の提供 (2) 本事業の認知度向上
日時	2021年10月31日(日)
参加者	3家族 (親子のべ9人)
主催	NPO法人GIFT
協力	学生有志
連携機関	高知市社会福祉協議会、高知市母子保健課



親子でリフレッシュできる手作りイベント

イベントでは、ハロウィンに因んだミニゲーム (おぼけボウリング・おかしタワー大会・魔かぼちゃ重さ当て大会等) やフォトスポットを用意しました。

子どもたちは可愛らしい仮装をしてきてくれたり、ミニゲームに自分なりのルールを加えて遊んでみたり…イベントを満喫する様子に、保護者の方も嬉しそうにカメラを向けていらっしゃいました。

イベント終了時には、ゲームでゲットした景品で袋はいっぱい! たくさんのお菓子を持って帰られました。

また、イベントは感染症対策で4家族限定での開催でしたが、沢山の方からお申込みをいただきました。広報を通じて、子育て中の方や関係者の方に少しでも活動を知っていただけたかと思えます。

参加者の声



いい思い出になりました。ありがとうございました!
日曜日の子育て応援スペースもぜひ利用させていただきたいです。

Ⅲ フードパントリー

目的	(1) 生活に課題を抱えた家庭との繋がり (2) 食品を介した併走支援
日時	10月3日(日)、10日(日)、17日(日) / 3月30日~4月7日 計4回
利用者	17家族 (母子のべ43人を支援)
主催	NPO法人GIFT
協力	NPO法人こうち食支援ネット、高知市社会福祉協議会
連携機関	高知市母子保健課

コロナ禍の苦境だからこそ新たなチャレンジを

2021年8月下旬から、高知県内の新型コロナウイルス感染拡大を受け、居場所の開催を自粛することになりました。危機的状況の中で、生活に課題を抱えた家庭と繋がり、支援ができないかと考え、知恵を絞って始めた活動です。

食品を渡すときの対話では、家計や収入に対する不安の声が多くありました。ひとり親家庭は、地域とのつながりが薄く、祖父母などの支援が少なく、孤立して子育てを行っているケースが多いです。

継続的な食品提供を通して、信頼関係を構築し、家庭の抱える問題をいっしょに考え、必要があれば関係機関に繋げる等の体制作りをしていきたいです。

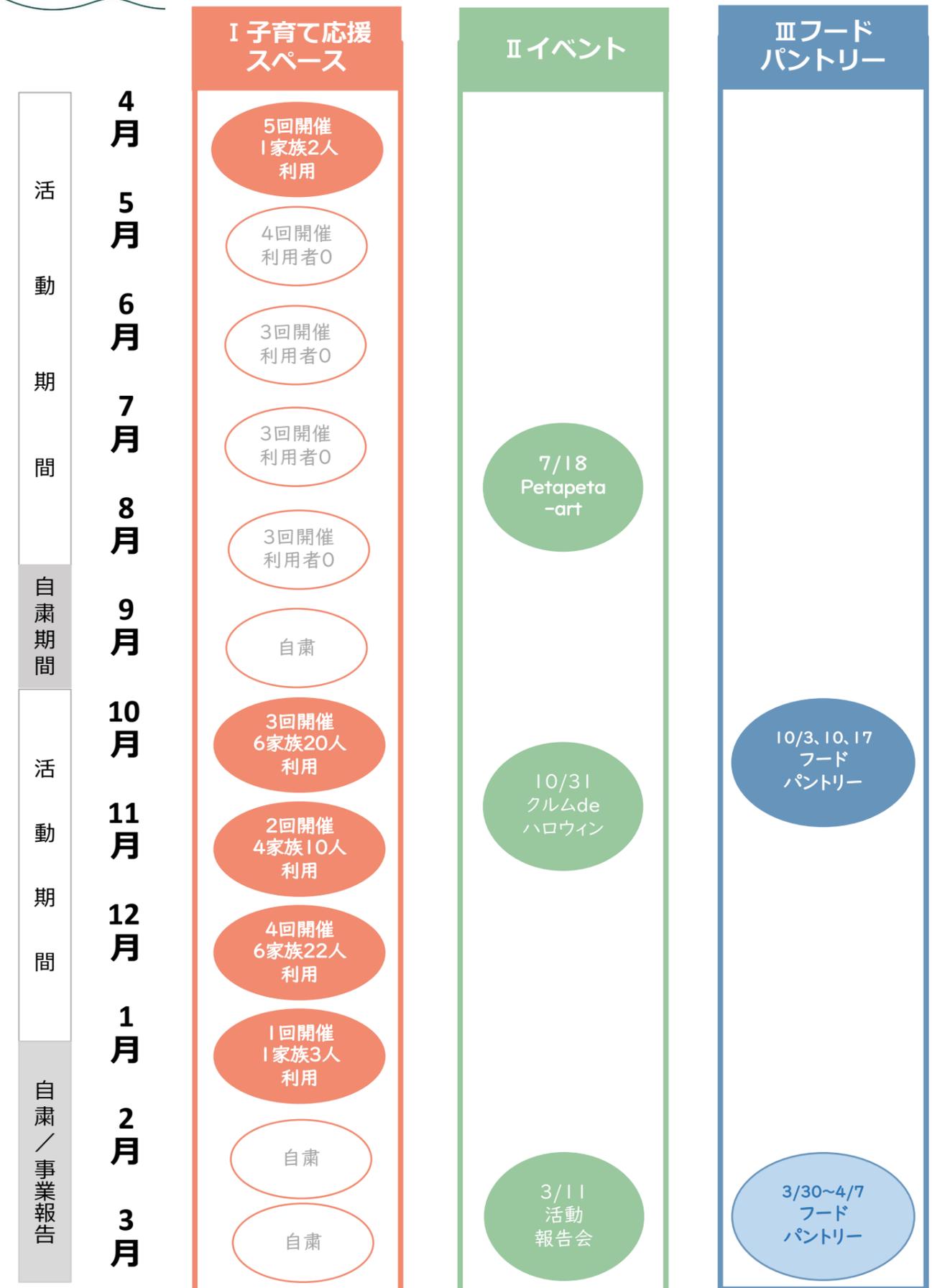


参加者の声



私は今回初めて申し込みしましたが、こういう催しがあるって
沢山のひとり親家庭に届いたらいいな、と思いました。頂いた
食材はみんなで考えて食べようね、と子供達とも話しました。
本当に助かります。ありがとうございました。

活動内容



子育て応援スペース「いちねん家族」



子育て応援スペースってなに？

子育て応援スペース いちねん家族とは、子育て中のママとパパの居場所です♪子育ての悩みや楽しみを共有することができます。毎週日曜日の11時～15時に開催しており、主に未就学児のいるご家庭が対象です。当団体が高知市社会福祉協議会より管理委託されている高知市朝倉の地域コミュニティ施設『クルム』を使用し、1軒家をフル活用しています。

ここにはスタッフと学生を中心とした地域のボランティアさんがおり、ランチ提供や子どもの見守り・預かりをしています。ランチや利用料は無料となっています。子どもたちは、ボランティアの方たちと一緒に伸び伸びと遊んでいました。また保護者の方たちは、その間お出かけをしたり、参加者同士で交流したり、親子でゆったり過ごしたり…思い思いの過ごし方でご利用されていました。

ひとときでも『自分の時間』や『いつもの子育てとは違った時間』を過ごしてもらえたのではないかと思います。

参加者の声



普段は家にいることが多いので、子どもも私も良いリフレッシュになりました。



普段の悩みをきいてもらえてうれしかったです。ご飯もおいしかったです。ありがとうございました。



本日はありがとうございました。お食事を子どもの分まで作ってくださり、しかも食べさせて頂いて。預かりまでして頂いて大変ありがたかったです。ここまでしてくれる所は他にはありません。一番大変な所をして頂いてありがとうございます。しかも無料！感動でした。

① 子どもの遊び場開放

子どもの遊び場があり、おもちゃで遊んだり、絵本を読んだり、ぬりえやお絵描き、室内遊具で遊んだり…様々な遊び方で楽しむことができます。

おもちゃの多くは、おもちゃ図書館さんからお借りしました。子どもたちの年齢や好みにあったおもちゃが準備しており、時間いっぱい遊ぶことができます。

スタッフもボランティアの方々も学生が中心だったため、幼児食の準備から子どもの見守り方まで、勉強の多い日々でした。



② 無料の昼食提供

ホッとすることだけのランチタイム

子育て応援スペースでは、スタッフやボランティアさん手作りのランチを無料で提供しました。ランチは保護者だけでなく、子ども用も準備しています。子ども分は離乳食後期からの提供になります。

また、補助のいる子どもにはスタッフたちが食事補助につくので、保護者の方にはゆっくり味わってお食事をしていただけました。

調理時、スタッフ等はマスク・食品用手袋着用の徹底、こまめな手洗い消毒、咳エチケットに取り組んで、調理を行いました。



II イベント Petapeta-art

目的	(1) 子どもの健全な育成の機会 (2) 地域で活動する団体の広報
日時	2021年7月18日(日)
参加者	4家族 (親子のべ14人)
主催	NPO法人GIFT、piccolino
協力	どんどこどん、学生有志
連携機関	高知市社会福祉協議会 高知市母子保健課

今この瞬間を形に残して、特別な時間と思い出に

Petapeta-art (ペタペタアート) は、朝倉地区にあるうぐるす歯科医院 piccolino (ピッコリーノ) さんとの共同開催で、参加者の皆さんには親子でアート作品を作ってもらいました。

当日は学生ボランティアや神田地区で活動している子育てサロン どんどこどんのスタッフさんが子どもたちを見てくださっており、初めてのイベントでしたが無事に終えることができました。

忙しい育児の合間でのアート作品の作成、集中して作品作りをしリフレッシュできたのではないかと思います。

また、イベントに参加してみて子育て応援スペースにも参加してくれるようになった方もおり、イベントをきっかけに、会場や周りの人の雰囲気を感じてもらえることが安心感につながることを学びました。

参加者の声



前々からペタペタアートしてみたいなあ、と思いはあったものの、子ども2人を連れていくにはなかなか大変で参加したことがなかったので、今回は本当に有難かったです。スタッフさんもいたので、子どもの相手もしていただきありがとうございました！

Petapeta-artの手順



1色を選ぶ



2ペタペタ



3色紙に飾りつけ



4世界に一つだけの
素敵な作品が完成♪

II イベント ペタペタアート

→ P.9

親子のべ14人が参加！

子どもたちの生き生きとした手形や足形に、ママたちがシールやマスキングテープでオシャレにかわいく飾りつけ♪

親子で一緒にアート作品を作成し、今この瞬間を形に残すことができ、特別な時間と思い出になりました



II イベント クルムdeハロウィン

→ P.10

親子のべ9人が参加！

最近はコロナ禍で家に籠もりがち…。

そんなご家族に少しでもリフレッシュしてもらいたいと、ハロウィンイベントを開催しました



III フードパントリー

→ P.11

母子のべ43人を支援

コロナ禍で居場所の活動が規制される中、ひとり親世帯等を対象に食料品の無料配布を実施

利用者は、段ボールと持参のエコバックいっぱいを持って帰られました。食料品以外にも、炊き込みご飯を2種類用意し配布しました

